

(Japanese Academy of Learning Disabilities)



# 日本LD学会会報 第67号

事務局：〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギショウビル3F TEL. 028-649-0090 FAX. 649-3318  
 URL. <http://www.soc.nii.ac.jp/jald/>



## 通常の学級と通級指導教室の 「連続性」と「連動」

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

笹森 洋樹

LD、ADHDが通級の対象となり2年が経過した。平成19年度小・中学校において通級による指導を受けている児童生徒数は4万5千人を超えた。自治体では、新しい通級を設置したり担当者を増員したりして充実を図っているが、限られた時間に特別な指導を行う通級の教育形態は、特別支援学校や特別支援学級とも異なり、担当者の専門性や教育課程の編成等に多くの課題がある。特に発達障害の場合は、学習面や行動面あるいは対人関係等における在籍学級での適応の困難さに対し、状態を改善していくことが求められる。担当者には、子どもの自信や意欲の回復、学力保障、担任や保護者への支援、地域の専門的な相談機関といった役割も期待されている。

小・中学校学習指導要領には、「特別支援学級及び通級による指導については、教師間の連携に努め、効果的な指導を行うこと」と示されている。通級は、日常生活の場である家庭や学校での適応状態の改善を図るために、特別の指導を行う場となる。通級における専門的な指導が、家庭や学校

において活かされるためには、保護者、担任との連携がとて重要になる。

通常の学級と通級指導教室の連携をうまく図っていくためには、教師同士がその位置づけの違いを認識し、それぞれの場における指導目標やねらいについて共通理解し、結果を焦らず長い目で成長を見守ることである。通級を活用することで、学級における担任の指導が子どもを成長させていくという姿勢が大切である。「生活の場」は通常の学級であり、それを支える「特別な場」が通級である。通級の担当には「専門性」が求められる。通常の学級の担任には「主体性」が求められる。通常の学級が子どもの「居場所」になることをめざし、通級はそのための「ベースキャンプ」となる。そして、通級で学んだことが、通常の学級で「一般化」「維持」されるためには、指導の「連続性」と「連動」が重要となる。

通級による指導の目標は、すべての子どもたちが地域社会で安定して生活し、一緒に楽しく活動できることをめざすことにある。